

診療支援部 企画課

診療支援部長 兼 企画課長 山崎 啓嗣

概要

2023 年は、新型コロナウイルス感染症の影響で受審延期となっていた「日本医療機能評価（本体審査、高度・専門機能審査）」の更新受審ほか、定例の保健所立入検査、「日本医療マネジメント学会 第 19 回高知県支部学術集会」事務局など多くのイベントが動き出した 1 年でした。

データ分析を始めとする資料作りでは「公的医療機関等 2025 プラン」の更新や病床機能変更に係る報告書の作成、行政への提出を行いました。

その他、2018 年以来止まっていた中学生、高校生を対象とした「病院体験ツアー」の再開や近森会グループ初の試みとなった多職種合同の就職説明会「ALL CHIKAMORI 近森就職セミナー」の開催など人材確保に向けた取り組みにも力を入れました。

1. 医療機能評価の更新審査（本体審査）

（高度・専門機能審査：救急医療・災害時の医療）

コロナ禍で受審延期を余儀なくされていた近森病院の認定更新審査を 4 月に受けました。特例措置による 1 年遅れの受審であったため高度・専門機能審査(救急医療・災害時の医療)とタイミングが重なりダブルでの受審となりました。

企画課では各部署への情報提供、資料調整、進捗確認などの受審準備を進めるとともに

機構からの中間報告に対する意見書の提出や個別の指摘事項についてワーキングチームで改善を図りました。

最終的に本体審査では 6 度目の認定を受けることができ、高度・専門機能審査では 3 度目の認定をいただきました。なお本体審査については旧バージョンでの受審でしたので次回以降の新基準での審査に向けて継続的な活動に取り組んでいきたいと思っております。



2. 日本医療マネジメント学会 第 19 回高知県支部学術集会

高知県内で毎年開催されています「日本医療マネジメント学会 高知県支部学術集会」が 2023 年 8 月 27 日（日）に高知市文化プラザかるぼーとにて行われました。

学術集会は事務局が持ち回りとなっており 2023 年（第 19 回大会）は川井和哉院長が大会長となり企画課が事務局として携りました。

大会テーマを「地域医療のニューノーマル」と定め約一年前から会場手配、企業協賛の依頼、演題募集、ポスター制作、学会ホームページの稼働など準備を進めました。コロナ禍により対面開催が久しく行われておらず当日まで心配されましたが一般演題発表のほか、特別講演、特別企画、ランチョンセミナーなど無事プログラムが行われ、県内各地からの参加者により活発な意見交換が行われました。

また全 88 演題中、近森会グループからは最多の 25 演題の発表があったほか座長 2 名、査読委員 21 名、運営スタッフ 34 名の協力を得て盛会に終えることができました。



表. 参加者数

参加区分	参加数
会員	27名
非会員	308名
合計	335名



大ホール会場



小ホール会場



学術集會會長：川井和哉 病院長と運営スタッフ

3. ALL CHIKAMORI 近森就職セミナー

人材確保の一環として近森会初となる12職種合同での就職セミナーを5月3日（水・祝）と11月3日（金・祝）に開催しました。

企画課では事務局として各部署のサポートや会場づくり当日の運営を行いました。本セミナーの特長は参加者が自分の目指す職種ブースを訪問するだけでなく、その他の医療職とも話をさせていただくという企画にあります。例えば看護師を目指す方には看護部のブース以外にリハビリや栄養部など自由に他のブースを訪問していただき、その職種から見た看護師業務の実状を聞いていただくというものです。チーム医療の進む近森らしい取り組みで多くの参加者から好評を得ました。



ブース面談会場

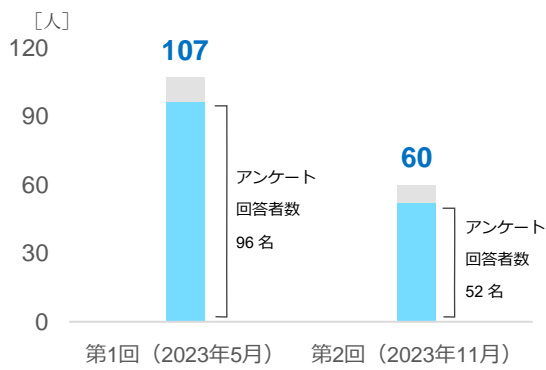


病院見学：近森病院ヘリポートなども

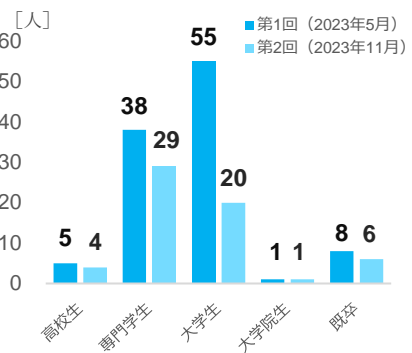


■アンケート結果（一部抜粋）

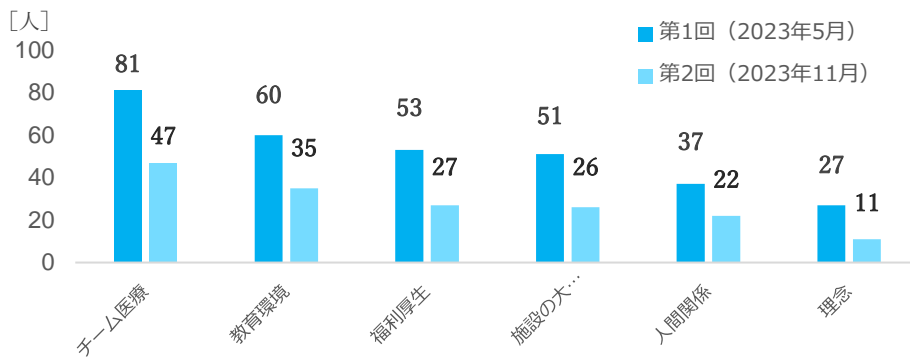
参加者数



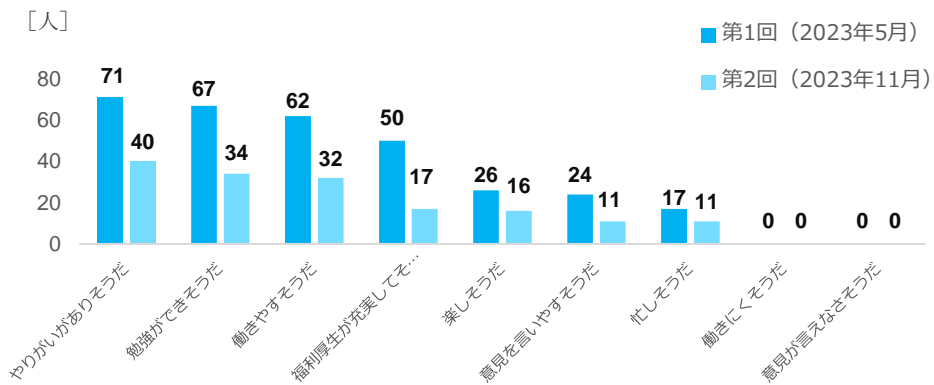
参加時点の状況



近森会グループのどんなところに魅力を感じましたか？（複数選択可）



近森会グループの印象をどのように感じましたか？（複数選択可）



4. 病院体験ツアー

2013年から始まった病院体験ツアーはコロナ禍で中止を余儀なくされていましたが、2023年は5年ぶりに開催することができました。

塚田暁消化器外科主任部長を中心に8月3日、4日（2日間のプログラム）で中学3年生から高校3年生までの20名が参加してくれました。過去に参加された兄弟に勧められて参加を決めた子どもさんもしゃりロコミで広がっていることを大変嬉しく思います。

体験コースでは日頃立ち入ることのできない手術室や検査室への訪問もあり医師の仕事では臨床で使用しているカテーテルの現物にも触れていただくなどリアルな体験をしてもらいました。子供さんたちのわくわくした表情がとても印象的で充実した2日間だったことが窺えました。今回も多忙な中、11部署の皆さんにはそれぞれ趣向凝らした体験を準備いただき素晴らしいツアーとなりました。心より感謝いたします。



5. 「近森病院 公的医療機関等 2025 プラン」の更新

厚生労働省通知にて各地方自治体は「地域医療構想調整会議」を開催し医療計画に定める将来の病床数について、その必要量を達成するため医療機関に関する対応方針の策定、検討、見直しを進めることとされています。

この会議での協議資料として公的医療機関、国立病院機構、地域医療支援病院、特定機能病院等においては「公的医療機関等 2025 プラン」の作成が求められており、地域医療支援病院に該当する近森病院は、2018年1月に「近森病院 公的医療機関等 2025 プラン」を作成し高知県へ提出しました。2023年は提出より5年が経過し本プランの更新要請を受けましたので更新版を高知県へ提出しました。

6. 「医療の質可視化プロジェクト」への参加

日本医療機能評価機構が主体となって進めている「医療の質可視化プロジェクト」へ参加しました。このプロジェクトは、医療安全、感染管理、ケアに関する3つの領域において参加病院と自院との立ち位置を客観的に把握し質改善活動の契機にすることを目的としています。企画課では、本プロジェクトの窓口として各部署からの提出データの取りまとめと集計結果のフィードバックを行いました。

7. 病床機能変更に係る資料作成

近森病院の地域包括ケア病床34床を急性期病床に転換するため高知県地域医療構想調整会議向けの協議資料を作成しました。

第8次高知県地域医療計画において近森病院は救命救急センターとして高度急性期医療に特化した機能が求められており、これまで高度急性期病床141床、急性期病床277床、回復期病床（地域包括ケア病床）34床で運営してきました（2023年7月時点）。しかしながらコロナ禍（陽性者受入）の影響等で救急患者の受け入れ制限をかけざるを得ない状況やベッド満床によるお断りが急増し高度急性期医療に重大な影響が出ていました。これらの状況を改善し地域医療を守るため、地域包括ケア病床を急性期病床に転換することとし調整会議への申請を行いました。

資料詳細は P.13 以降 参照

8. その他

8.1 動画制作ほか

①グリーンライトアップキャンペーンへの参加

毎年10月は臓器移植普及推進月間であり、全国各地でのちや移植医療について考えるイベントが行われます。2023年は高知県腎バンク協会からの要請を受け、ヘリポートや病院外壁のライトアップを実施しました。また、臓器提供意思表示に関する啓発CMを制作し高知市の繁華街にある帯屋町ビジョンにて1ヶ月間放映しました。



②患者さん向け手術説明動画制作（心臓血管外科）

心臓血管外科では入院および手術説明動画を使って患者さんやご家族への説明を行っています。制作から十数年が経ち内容の見直し行うこととなりました。

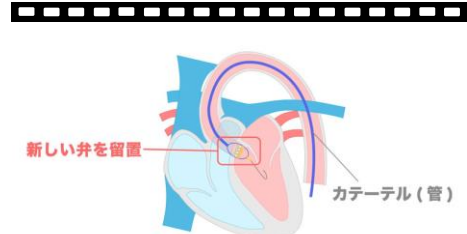
ご覧いただく患者さんやご家族に正しい情報がスムーズに伝わるよう構成、編集を検討し計8本の動画を制作しました。

当該動画は近森病院ホームページからも視聴が可能となっています。



また、主治医からも 病状と手術の内容を

■ 「入院から退院まで」 8分46秒



前の弁を残したままで弁を留置する。

■ 「TAVI・心臓弁膜症手術を受けられる方へ」
39分18秒

8.2 近森病院 77 周年記念

2023年12月は77周年記念として近森正幸理事長からのメッセージが添えられたお弁当が近森会G職員、協力会社職員など全ての関係者に振舞われました。記念日の12/24が日曜日だったため前後4日間で（21・22・25・26日）2,184名へ配布しました。



全職員へ配布された
お弁当とメッセージカード



8.3 ホームページ

企画課では院内外への情報発信を様々な方法で行っていますが、特にホームページのアクセス数は直近データで年間17万6,000人超まで伸びています。

また発信内容については、各部署からの依頼や当課からの提案にて更新を続けており2023年は臨床検査部の特設ページなども新しく公開しました。

8.4 データ分析

業務改善に向けたデータ分析、資料作成等

作成資料詳細は P.9 以降 参照

- ・ 出生数の実績と将来推計 資料作成
- ・ 近森病院 医師別初診割合・紹介割合・単価
- ・ DPC 退院患者数
- ・ DPC 救急医療入院患者数
- ・ 医療機関別予定外・救急医療入院件数と予定入院患者数の実績
- ・ 救命救急センターの評価結果(令和4年)
- ・ 人口推計
- ・ 病床機能の変更に係る補足資料
- ・ 救急隊の時間帯別出動件数と近森病院の救急搬送受入件数
- ・ 高知県 医療需要予測
- ・ 公的医療機関等 2025 プラン更新
- ・ 高知県救急隊の搬送件数(速報)
- ・ 救急搬送件数(月次データ)
- ・ 救急搬送 受入件数(2015.4～) <理事会資料用>

毎年作成している資料

8.5 清掃活動

管理部有志で続けている清掃活動は12月で丸五年が経過しました。

※毎月25日は清掃活動の日



8.6 立入り調査対応等

医療機能評価更新審査 関連

- ・ 本体審査、高度・専門機能審査主たる機能 : 2023.4.24、25
- ・ 高度,専門機能 救急医療・災害時の医療 : 2023.4.26

9. アンケート調査への対応

- ・ 人工透析等の腎代替療法に関する状況調査(令和4年度7月から)
→依頼元: 厚生労働省(健康局がん疾病対策課 腎疾患担当)(2023/2/7 提出)
- ・ 個人防護具の国備蓄品の売却に係る購入希望調査
→依頼元: 厚生労働省(2023/1/13 提出)
- ・ 臓器提供施設の体制整備状況に関するアンケート(令和4年度)
→依頼元: 厚生労働省(2023/2/10 提出)
- ・ 改正感染症法施行(協定等)に係る医療機関の実態調査
→依頼元: 厚生労働省(2023/6/9 提出)
- ・ 新型コロナウイルス感染症の公費請求業務に関するアンケートについて
→依頼元: 厚生労働省(2023/7/26 提出)
- ・ 感染症調査 新型インフルエンザ対策医療機関整備状況
→依頼元: 厚生労働省(2023/8/4 提出)

- ・ VHJ 経営調査（2021 年度）
→依頼元： 特定非営利活動法人 VHJ 機構（2022/8/3 提出）

10. ホームページ、ポスター、サイン類のデザインに関する対応

作成資料詳細は P.16 参照

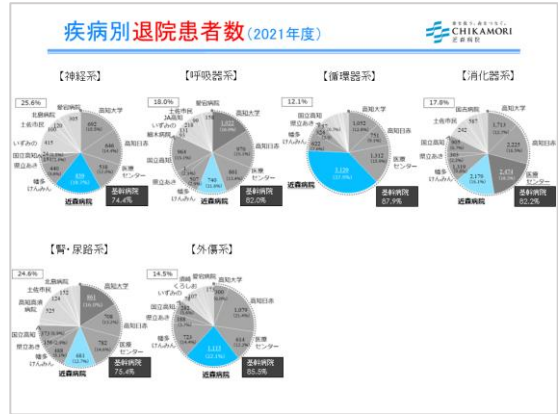
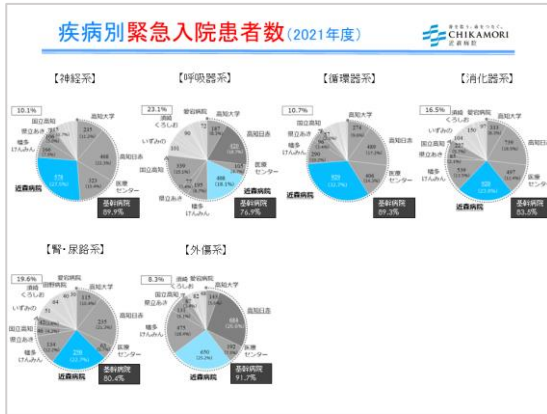
11. 人員配置について

- | | | |
|------|-------|--------------------------|
| 3 月 | 中瀬みのり | 入職 ※WEB 担当 |
| 4 月 | 坂井 知也 | ファミリーユ高知からの研修受け入れ（5 ヶ月間） |
| 8 月 | 公文 奈弥 | 退職 |
| 9 月 | 坂井 知也 | 研修終了（企画課→施設用度課へ） |
| 11 月 | 山下 朗 | 入職 |
| 12 月 | 白石 遼 | 入職 ※WEB 担当 |

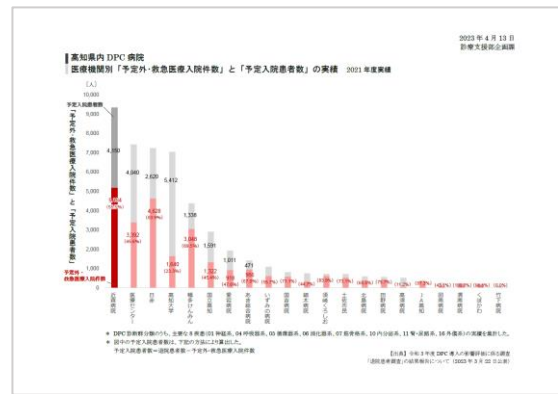
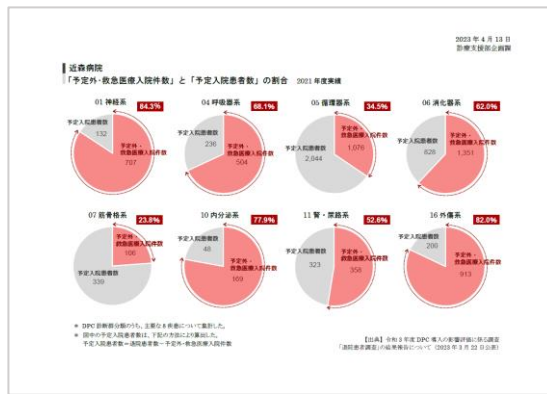
昇格について

- | | | |
|------|-------|-----------|
| 5 月 | 北川 真也 | 課長補佐 ← 主任 |
| 10 月 | 山川 葉子 | 主任心得 |

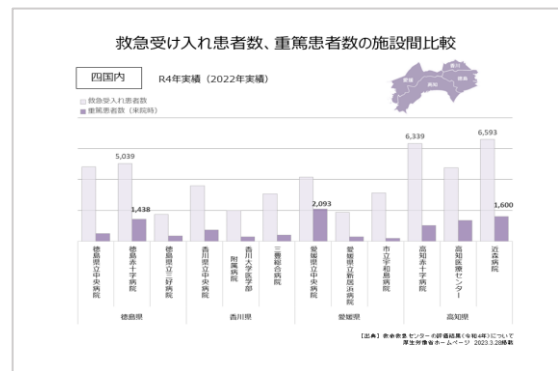
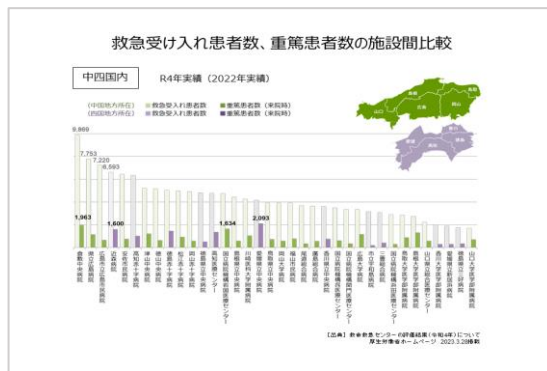
・疾病別退院患者数、疾病別緊急入院患者数



・医療機関別予定外・救急医療入院件数と予定入院患者数の実績



・救命救急センターの評価結果(令和4年)



年間に受け入れた救急車搬送人員

R4年実績 (2022年実績) 全国

救命救急センターを設置する病院の年間受入救急車搬送人員 (多い30施設)

順位	施設名	搬送人員
1	瀬田総合病院	22,355
2	瀬田市民病院	19,153
3	徳島大学病院	12,673
4	香川総合病院	11,652
5	徳島大学病院	11,604
6	徳島大学病院	11,632
7	徳島大学病院	11,287
8	徳島大学病院	11,287
9	徳島大学病院	11,287
10	徳島大学病院	11,253
11	徳島大学病院	10,680
12	徳島大学病院	10,545
13	徳島大学病院	10,390
14	徳島大学病院	10,324
15	徳島大学病院	10,295
16	徳島大学病院	10,078
17	徳島大学病院	10,038
18	徳島大学病院	9,840
19	徳島大学病院	9,598
20	徳島大学病院	9,561
21	徳島大学病院	9,370
22	徳島大学病院	9,370
23	徳島大学病院	9,076
24	徳島大学病院	9,054
25	徳島大学病院	8,816
26	徳島大学病院	8,775
27	徳島大学病院	8,759
28	徳島大学病院	8,722
29	徳島大学病院	8,700
30	徳島大学病院	8,653

48 救急病院 6,593

年間に受け入れた重篤患者数

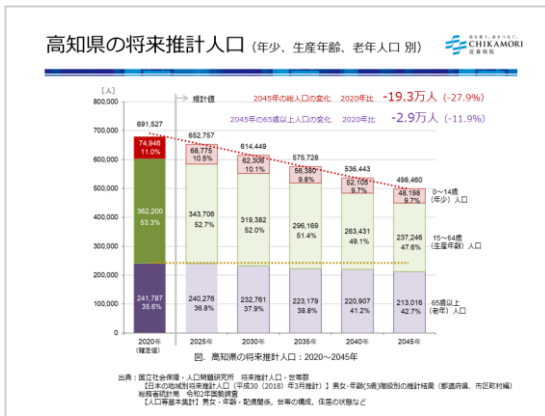
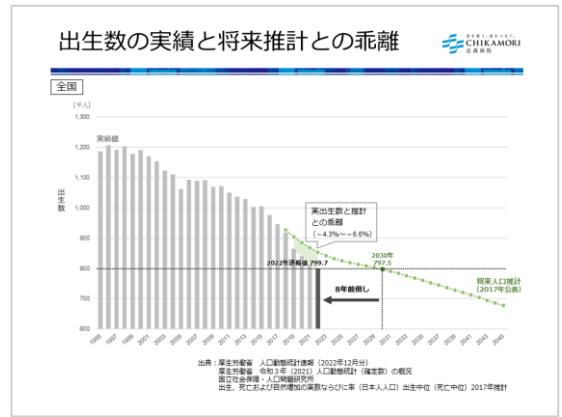
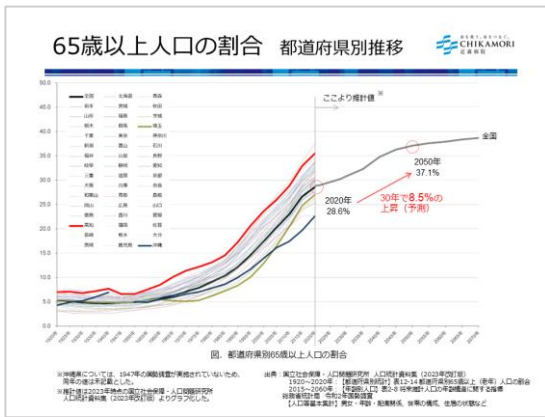
R4年実績 (2022年実績) 全国

年間に受け入れた重篤患者数の多い施設 (多い30施設)

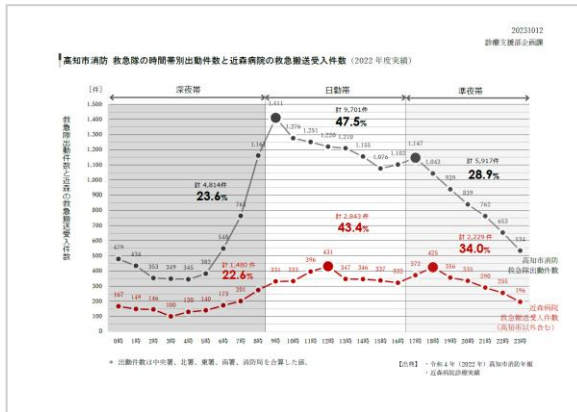
順位	施設名	重篤患者数
1	徳島大学病院	2,895
2	徳島大学病院	2,882
3	徳島大学病院	2,533
4	徳島大学病院	2,533
5	徳島大学病院	2,437
6	徳島大学病院	2,342
7	徳島大学病院	2,284
8	徳島大学病院	2,206
9	徳島大学病院	2,119
10	徳島大学病院	2,103
11	徳島大学病院	2,053
12	徳島大学病院	2,048
13	徳島大学病院	1,963
14	徳島大学病院	1,959
15	徳島大学病院	1,950
16	徳島大学病院	1,910
17	徳島大学病院	1,902
18	徳島大学病院	1,888
19	徳島大学病院	1,882
20	徳島大学病院	1,865
21	徳島大学病院	1,853
22	徳島大学病院	1,846
23	徳島大学病院	1,821
24	徳島大学病院	1,824
25	徳島大学病院	1,822
26	徳島大学病院	1,807
27	徳島大学病院	1,783
28	徳島大学病院	1,779
29	徳島大学病院	1,777
30	徳島大学病院	1,774

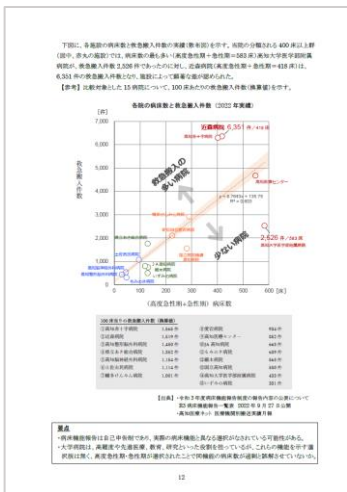
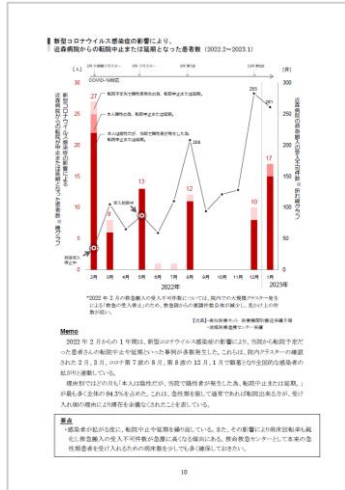
48 救急病院 1,600

・人口推計



・救急隊の時間帯別出動件数と近森病院の救急搬送受入件数





・高知県 医療圏別年齢別医療需要

高知県の医療需要予測

二次医療圏別、サブ区域別（中央医療圏）、年齢階級別

2023.12.28
診療支援部企画課

【医療需要算出方法について】

- ① 医療需要（予測）は、各年齢階級別人口に「医療需要係数」を乗じて算出した。
- ② その医療需要係数は、「医療診療医療費」を年齢階級別「人口」で除算し、「国民一人当たりの医療診療医療費」として算出後に、40～64歳の医療診療医療費を基準（1.0）として階級ごとの係数を算出した。

* 本資料では、上記計算式により算出し公開されている日医総研ワーキングペーパー2014年データを引用した。

国民一人当たりの医療診療医療費	医療需要係数
0歳～14歳 10万1,740円	0.6
15歳～39歳 6万5,389円	0.4
40歳～64歳 17万1,168円（ 基準 ）	1.0
65歳～74歳 39万4,500円	2.3
75歳以上 67万2,007円	3.9

（出典）
 ○医療需要係数：日医総研ワーキングペーパー2014年度版 序章
 ○地域の医療提供体制の現状と将来：都道府県別・二次医療圏別データ集
 ○医療診療医療費：人口厚生労働省平成22年度（2010年）国民医療費の概況
 ○人口：総務省統計局「人口統計」（平成22年国勢調査による基準人口）

医療圏別 人口・医療需要予測

人口・医療需要予測

高知県 二次医療圏別の人口・医療需要予測（2025年～2045年）

医療需要の算出方法
 医療需要は人口の1.5～2.1倍が推定される。

中央医療圏
 人口10万人 医療需要15万人

南予医療圏
 人口5万人 医療需要7.5万人

北予医療圏
 人口3万人 医療需要4.5万人

東予医療圏
 人口2万人 医療需要3万人

西予医療圏
 人口1.5万人 医療需要2.25万人

高知市 区域別

人口・医療需要予測

* 高知市区域別の需要予測については、同市より公表されている消防署管轄区域（4区分）別人口データを基に算出した。

中央医療圏_4つのサブ区域別の人口・医療需要予測（2025年～2045年）

医療需要の算出方法
各区域で各人口に係数（年齢階級別）を乗じて算出。
 ■ 75歳以上 × 3.9
 ■ 65～74歳 × 2.3
 ■ 45～64歳 × 1.0
 ■ 15～39歳 × 0.4
 ■ 0～14歳 × 0.6

北前山サブ区域 2.2%
 物部川サブ区域 20.0%
 仁淀川サブ区域 14.6%
 高知市 63.2%

※ 中央医療圏を4つのサブ区域で再編成し、4つのサブ区域で再編成した際の医療需要の比率が最も高知市が最も高くなること。
 ※ 一方で、人口に対する医療需要の伸びは物部川サブ区域、仁淀川サブ区域が最も高く、これは高齢化比率が高いためである。

高知市_消防署管轄区域別の人口・医療需要予測（2025年～2045年）

医療需要の算出方法
各区域で各人口に係数（年齢階級別）を乗じて算出。
 ■ 75歳以上 × 3.9
 ■ 65～74歳 × 2.3
 ■ 45～64歳 × 1.0
 ■ 15～39歳 × 0.4
 ■ 0～14歳 × 0.6

高知市 38.1%
 中央消防管轄区 40.5%
 東消防管轄区 21.4%
 南消防管轄区 14.2%

※ 高知市内の医療需要比率は、北前山サブ区域が最も高く、物部川サブ区域が最も低い。これは高齢化比率が高いためである。
 ※ 一方で、人口に対する医療需要の伸びは物部川サブ区域、仁淀川サブ区域が最も高く、これは高齢化比率が高いためである。

年齢階級別

人口・医療需要予測

高知県_年齢階級別の人口・医療需要予測（2025年～2045年）

医療需要の算出方法
各区域で各人口に係数（年齢階級別）を乗じて算出。
 ■ 75歳以上 × 3.9
 ■ 65～74歳 × 2.3
 ■ 45～64歳 × 1.0
 ■ 15～39歳 × 0.4
 ■ 0～14歳 × 0.6

65歳以上
 2020年と2045年の差
 2020年 1,020,000人
 2045年 1,150,000人
 差 130,000人 (+12.7%)

65歳～74歳
 2020年と2045年の差
 2020年 250,000人
 2045年 280,000人
 差 30,000人 (+11.9%)

45歳～64歳
 2020年と2045年の差
 2020年 1,200,000人
 2045年 1,150,000人
 差 -50,000人 (-4.2%)

15歳～39歳
 2020年と2045年の差
 2020年 1,000,000人
 2045年 950,000人
 差 -50,000人 (-5.0%)

0～14歳
 2020年と2045年の差
 2020年 1,000,000人
 2045年 1,050,000人
 差 50,000人 (+5.0%)

※ 年齢階級別の医療需要予測では、2045年は2020年を基準として、65歳～74歳の階級では31～36%増、65歳未満の階級では約1%減少に算出される。一方、75歳以上では1%の減少に算出されており、2045年時点での総数は2020年時点よりも増える予測となっている。

次ページより追加（P.9の拡大）資料

高知県_年齢階級別の人口・医療需要予測（2025年～2045年）

医療需要の算出方法
各区域で各人口に係数（年齢階級別）を乗じて算出。
 ■ 75歳以上 × 3.9
 ■ 65～74歳 × 2.3
 ■ 45～64歳 × 1.0
 ■ 15～39歳 × 0.4
 ■ 0～14歳 × 0.6

2020年と2045年の差
 2020年 1,815,680人
 2045年 1,633,980人
 差 -181,700人 (-10.0%)

高知県_年齢階級別の人口・医療需要予測（2025年～2045年）

0～39歳
 2020年と2045年の差
 2020年 1,000,000人
 2045年 1,050,000人
 差 50,000人 (+5.0%)

40～64歳
 2020年と2045年の差
 2020年 77,933人
 2045年 77,933人
 差 0人 (0.0%)

65～74歳
 2020年と2045年の差
 2020年 42,429人
 2045年 42,429人
 差 0人 (0.0%)

75歳以上
 2020年と2045年の差
 2020年 6,307人
 2045年 6,307人
 差 0人 (0.0%)

※ 年齢階級別の医療需要予測では、2045年は2020年を基準として、0歳～64歳の階級では31～36%増、65～74歳の階級では24%増となり医療需要の減少が算出される。一方、75歳以上では1%の減少に算出されており、2045年時点での総数は2020年時点よりも増える予測となっている。

■制作物等

2023年に作成したポスターや冊子等の一部を掲載します。

